



笑う門には 福来たる

(株)日本交通社
発行人 光田秀之
☎089-946-3911

わたしの詩
わたしの詩は
生きろための甘しみ
生きろための泣き
生きるための喜び
休むかしのめらむこと
今も生きようとする
そらういうんたうい
たさげり
わたしの詩の
かたまりであり
湧き水である
坂村真民



坂村真民記念館 (砥部町)

明朗・愛和・喜働

自然を感じる

天の海に 雲の波立ち 月の船

星の林に 漕ぎ隠る見ゆ

この短歌は、飛鳥時代の歌人、柿本人麻呂が詠んだ歌で、「天空の海に雲の波が立つ中を、月の船が星の林へと漕いで隠れていく」という内容です。

夜空を海原に例えたロマンチックなこの短歌からは、自然界の美しさをとらえた作者の優れた感性と芸術性が感じられます。

こうした感性を磨くためには、森林や海だけでなく、身近な自然への感動を味わうことが大切です。例えば、寒い日に太陽へ手をかざして温もりを感じたり、冬を耐え忍ぶ花のつぼみの生命力に思いを馳せたりすると良いでしょう。

最も身近な自然物である人間の体にも目を向けるのも面白いかもしれません。

意識せずとも動き続ける内臓や緻密に作られた骨格など、自身の体からも自然の偉大さや神秘を感じ取ることが出来ます。

自然や人、物を美しいと感じることが出来るように、感性を磨く機会を多く持ちたいものです。

◆自然に触れましょう

「職場の教養」より

黒石寺蘇民祭(岩手県奥州市)

1000年以上の歴史があるという奇祭。「裸の男と炎のまつり」と称され、天台宗の古刹、黒石寺で毎年1日正月の7日夜から翌日の早暁にかけて開催される。ふんどし姿の約100人の男衆が凍てつく川で身を清めてから掛け声とともにお堂を巡り、厄除けや豊作を祈る。クライマックスは縁起物が入った袋を奪い合う蘇民袋争奪戦で、奪い取った者の住む地に五穀豊穡の福運が授けられるといわれている。なお、担い手不足などにより2024年が最後の開催になりました。



日本再発見!

保親さんの人生万感

種を蒔く大地は人を裏切らず
麦蒔けば麦が花蒔けば花

官僚の高き誇りも捨て去りて
忖度に生きる悲しき末路

心に決めたことは天との約束

衣約束を守らなければ信用を失う。人が見ていようがいまいが、決心したことは必ず実行しよう。

